

# ひでお行動

VOL.26

<http://www.hideo-y.org/#top>  
吉泉秀男の毎日の動きがわかります。  
ホームページをご覧ください。

低炭素社会に向けた脱化石燃料時代をめざす内容で政権合意、しかし、原子力発電はクリーンエネルギーと位置づけ安全性が問われているにも関わらず積極姿勢、私達とはあいられないものである。

## 8月2日

今日から予算委員会である。朝1便で上京、酒田市長はじめ庄内開発協議会陳情団と一緒にいる。脱官僚と言いながら民主党候補者選びが若手官僚から擁立している事に奇妙な思いする。北海道5区の小林千代美議員辞職で今回も国交省の38歳を擁立すると言う。他の政党のことだからとやかく言う必要はないが、言っている事と行動が違うのでは不信感が増すだけである。

今日のA新聞で「日本の原発を中東で売る」と言うタイトルで号外版を出している。小見出しは次の通り

「民主党政権は官民一体での原発ビジネスを成長戦略の1つに位置づけた。日本は米国、フランス、ロシア、韓国と並ぶ原発大国、受注をめぐる主要国間の競争は、国のトップまで巻き込んだ激しい争奪戦になっている。その大きな舞台が中東だ。核拡散や治安面の懸念もあるこの地域で日本は原発プロジェクトにどうかかわろうとしているのか。」

「テロ軍団に核を渡すようなことになってはならない。」これが世界共有する認識である。中東での原発が核兵器開発に結びつかないようにするにはどうすればよいのか、導入国と供給国との間で試行錯誤が続いている中で、日本の経済成長戦略の一番手に原子力をもって来る民主党政権……

## 8月3日

山形県唯一の酒田港が重要港湾指定から外されるのではないかと心配していたが、重要港湾43港湾中に入る。この間の山形県知事、酒田市長はじめ関係者のご努力に敬意を表す。酒田港を利用した経済活性に向けた具体的な施策が求められる。環日本海時代と叫ばれてから久しいが、中国、ロシアをはじめとする経済交流に向けて進んでいるが、今、自分自身も「日ロ協会」理事として、人脈を大切にしてお互いの貿易の検討に入っている。

社民党国会対策会議9時10分から開催し「議員歳費の日割りについて」論議し、与党野党合意する。内容は今議会で新しく当選された参議院議員の自主返納の改正案を成立させ、抜本的な制度改正については、次期臨時国会までに協議することで合意する。

15時55分理事会16時農林水産常任委員会開  
社民党はじめ関係自治体など求めている今回の集中豪雨被害の激甚指定災害適用として大臣から前向きに検討する旨の答弁あり。

### 私の質問

「戸別補償制度」申請が130万件を超えるなど、生産者の期待が多い反面、米価が入札する度に価格が下がり、それでも取引量が増えないことに対する不安が大きくなっている。我が山形県庄内では仮渡金より低い価格で売りに出しているが状況は厳しい。今年度産米価に跳ね返ってくる。価格は補償保障する心配ないというが、財政措置、そして国民からこの制度の理解が得られるのか。この事に対し自民、公明も問うが明快な答弁なし



早場米が間もなく出てくる中で、21年度産が30万トン以上売れ残る。備蓄米として買上げすべきである。これも自民触れるが、在庫量6万トンという答弁、各県での販売努力を促しながら、備蓄米100万トン確保の域から出ない答弁。

2年もたたず事故米不正流通発覚、82トンから3000トンに広がり管理体制の不備を指摘、何時まで調査報告なるのか。10月より政府所有米穀の売買・管理業務が民間に委託する事になっているが、調査結果が明らかになるまで委託は保留すべきである。しかし答弁は何時まで調査が明らかになるか判らず、委託は10月実施。こんな答弁であるから政府米管理状況を社民党として現地調査に入っていくしかないと考える。

### ワンコイン懇談会

「小さくてもキラリと光る社民党」をめざし、「議員秘書、社民党書記局職員が500円で何でも話し合える場」である。我が事務所が考え、「山内参議院事務所」との私の事務所との交流会からスタートした。議員秘書同士、又議員と交流する機会はほとんど無い。初めてであり自己紹介から始まり、議員中心に会話は弾んだが、各秘書達も今おかれている社民党を憂いながらも、何をどうすればよいか戸惑っている感じが見えた。議員がしっかりしないと……これからも各議員事務所に声をかけて交流の機会を増やしていく事を確認する。

## 8月4日

100歳以上の「不明者」が自治体で確認作業が進むと同時に増えて来る。大臣は「110歳以上の高齢者と面接して早く状況を把握し対応する。」と言明したが、田舎出身の私から見れば考えられない事である。健康であっても高齢者が1年に1度も医者にかからない人は少ないと思うし、健康保険など確認される手立はいくらでもある。行政に対する不信感が増すだけである。1人住まいの高齢者が1年間も死んだまま見つからなかったと言う悲しい事件も出てきている。高齢社会が進み「誰も面倒見てくれる人がいなくなる。」と言う不安を抱える人が増えている。「家族の絆」「地域の絆」を1人ひとりが真剣に考えていく事が求められる。

11時50分代議士会、12時15分本会議、新しく当選された参議員の歳費、自主返納に関する改正法案全会派一致で可決、鈴木宗男議員在職25周年表彰、議員は1審、2審とも実刑判決を受け最高裁に上告中である。最高裁の判決が出るまでいくら25年議員を続けたからと言っても表彰は延ばすべきと思うが、表彰された。自ら「刑事被告人の身だが表彰受ける」と登壇し感謝の弁を述べた。

工場閉鎖で労使紛争が続いているS労組、本社の交渉団に参加するが、門前で「約束取れていない。」と拒否され押し問答続く。本社からすれば関連グループの企業の問題として対応しているが、働く人たちから見れば死活問題である。朝5時で出てきて門前払いとは頭にくる。景気が上向き仕事も増えてきているのに、「閉鎖とは納得できない。」と抗議が続く……引き返し今後の対策を練る。社民党労働部長としての任務も大きくなるし、曾戸担当事務局も大変である。夕方は、原水禁広島集會に参加するI氏そして平和センター事務局S氏、弁護士T氏執務室にき



て懇談。帰る途中生産農家の S 氏から連絡入り、全日空グループ内の輸出担当している H 社長と会う。以前に庄内空港建設事務所勤務の時、逢っておりこれから農産物輸出入について話題がはずむ。

## 8月5日

全国連合常任幹事会

朝8時半と夕方6時から開催された。夜は選挙総括で各自の総括を持ち合い、9時半過ぎまで議論する。一人ひとりの意見を述べたが、本音の論議が少ない。総括運動を提起しながら幹部の構えが問われている。

大きな敗北である。「総括たたき台」を選対本部で出したが、書記局、秘書、党員一人ひとりが総括運動に参加し一丸となって「再建」を目指す時である。選挙方針に責任をもつ3役と常任幹事としての総括、その方針を受けてのブロック、県連合の総括、党員自らの総括、今、総括運動を提起しながら幹部自らの総括をキチッとすることが求められる。

辻元離党問題は辻元自らの総括であると思う。彼女が言っている理由、それが自分の総括と照らしどうなのか。離党慰留であいまいな時間を費やす時ではないと考える。

農林篠原副大臣口蹄疫申し入れ

現地調査、委員会質疑を踏まえて次の9項目を、幹事長、中島副幹事長と篠原副大臣に提出する。

1 口蹄疫の発生源および感染拡大経路の徹底調査と全容解明を行うこと。

2 家畜共済金の支払いについては、加入者であるワクチン接種農家も患畜農家と同等の補償とすること。

3 口蹄疫特措法23条の地域再生のための基金を早期に創設し、地域経済、風評対策、金融支援などを含め県の復興対策を支援すること。

4 国家防疫対策を強化するとともに、再発防止対策（消毒、堆肥や飼料の安全確保など）に取り組むこと。

5 畜産関係者の失業・雇用対策に取り組むこと。

6 出荷遅延対策の支援金の上積みをはかること。

7 畜産農家の経営再開までの生活補償支援を行うこと。

8 補償金については、所得税や住民税の課税対象としないこと。

9 自治体が国家防疫のために行ってきた埋却地確保や消毒作業など防疫措置に係わる必要経費のすべてを全額国が手当すること。

## 8月6日

臨時国会終る。広島「原爆の日」国会においても1分間の黙祷が始まる。社民党両院総会から始まり、消費者理事会、消費者特別委員会、青少年理事会、青少年特別委員会、農林水産理事会、農林水産常任委員会、農林水産海外視察検討会、代議士会、本会議と分刻みで開催される。その間、田川商運社長がわざわざ、前の執務室備品を運ぶ為の下見



に来ていただいたり、舟形町議会との意見交換、林野労組の書記長との意見交換する。そして明日から19日まで地元活動であり秘書との打ち合わせする。

2年ぶりコメ豊作

米穀データーバンクは作況指数102と発表した。農林省の需要予測805万トンを大幅に上回り、米価の下落は瀬げられない状況である。早場米の宮崎県では22年度産仮払いは1万円に下落している。山面他県21年度産米完売できなく在庫をかかえる見通しで、既に1万2千円切れそうな価格で取引なされている。「戸別補償」で支えると大臣は言い切っているが、「財政そして国民の理解を得る。」大きな壁がある。休会中の農林水産委員会開催を自民、公明党と共に申し入れる。

後援会総会ビアパーティー：4時半の飛行機で地元へ、6時過ぎに会場である「梵天」に着き、準備して頂いている役員の方々にお礼に廻る。満席ではないが6時半、予定通り開催する。庄内町から町長、議長、経済界、そして社民党、鶴岡、酒田の代表を紹介し、10分間の国会報告挨拶し、小林前後援会長から乾杯で始



まる。7時を過ぎ600席は少し空席があるが、ほぼ揃う。通路は狭いが、なるべくすべての席に挨拶まわり、最後は8時半近く、終わりの時間である。例年同様、地域活性化を図る為に終了は8時半、町内の飲食店で2次会、3次会と流れ、タクシーも大忙しである。それぞれ、役員ご苦労さん会会場をスタートに2次会3次会で盛り上がっている飲食店、4店にお邪魔する。1時過ぎてしまう。後援会役員の方々をはじめ出席頂いた皆さんに感謝である。

## 8月7日

山形花笠まつり最終日であるが見に行けず。残念である。高校野球はじまり、事務所に会長はじめ役員立ち寄る。

午後から」社民党3区添う支部役員会、内容は選挙総括である。〇〇名の党員拡大、〇〇部の機関紙拡大はできたものの、党の力量は大きく落ち込んでいる。各市町村の社民党得票数は議員1名くらいの得票数しかない。この厳しい結果に対する危機感が少ない。まず各支部で結果に対する本音の議論必要であり、その場を作ることから再出発である。

## 8月8日

「第2回庄内おぼこ全国大会」である。115名が県内、東北から出場、「民謡庄内おぼこ」は全国に知られた民謡である。昨年「民謡、友星会」代表岩松友星先生が、中止になっていたこの大会を復活させた。会場「響」には、三味線、尺八、太鼓の音が時間前から音合わせ、着付け等で舞台裏は忙しい。始まる前に出場者に挨拶する。大会はシニアの部、ジュニア、一般の3部に別れ、競い合った。夜は鶴岡赤川花火大会、昨夜の港町酒田花火大会と続き真夏の夜空を彩った。